



## 「話すこと」からはじめませんか

園長 野中 泉

「たくさんの大人と、これからについて話し、いろんな話が聞けて、いろいろ考える機会になり、楽しかったです！」  
実は、これは、私が直接聞かせてもらった言葉ではなく、10月の『アトム Café』に参加してくれた中学生が、学校に提出する日記に書いた文です。担任の先生からは「それは、どんな話ですか？どんな大人たちですか？」という返事が書かれていたそうなのですが、それに対してアトムの卒園児でもある彼女は先生への答えに、こんなことも付け加えました。「私の保育園は、保育園と保護者が対等です。保育士と園児も対等です。だから、大人と子どもが対等なので、小さい時から話をすることを大切にするように育ててもらいました」。こんな言葉を聞いた中学の先生が、どんなふう感じて、どんな答えを返してくれたのか、残念ながらまだ聞いていません。でも、私は、改めてアトムの『これまで（歴史）』も、そして『これから（未来）』も、その時々仲間たちと「話しあいながら作られてきた（作られていく）」園なのだと、13歳の彼女に教えられたような気がしました。

無償化を真ん中に、集まって「話すこと」からはじめようと一週間連続で開いてくれた保護者会（人材派遣部）主催の『アトム Café』。その初日は、「保育料が無償になれば、だいたいの親のお財布は助かる、その何があかんの？」こんな言葉から始まりました。初日の参加者は10人でしたが、スタッフと職員以外の参加はたった3人。でもその翌日は、初日に来てくれた3人が新しい仲間を連れてきて13人。その後もリピーターと新しい顔ぶれが混ざりあいながら、口コミでじわじわと参加者は増え続けて、結局5日間の延べの参加者は、68名にもなりました。

二日目には「アトムの給食は特別。しかも休日保育も夜間もアトムだけがやってる。他の園と差別化して給食費高くなってもうちは払うで」という意見が出て、それに対して福祉の現場に市場競争やお金の格差あってもいいの？と疑問の声も同時にあがりました。その後も、熊取町で早速待機児童になってしまった当事者の声のリアルさに衝撃をうけたり、子どもだけでなく親である自分自身がどんなにアトムに助けられ育てられてきたかで涙を流しあったり、アトムがこれからもどんな園であり続けてほしいかの思いなど、毎回、前日の話を受けつつ、メンバーが変わるたびに新しい話題のカフェが重ねられていきました。

そんな4日目の夜の事です。初参加のスイカ組の保護者がこんなことを話してくれました。「私は、今まで保護者会からのお便りはみんなスルーしてました。自分にはあんまり関係ないって思って。でも、今年始めてアトムフェスを見たんだけど、我が子じゃなくて、他の子の姿見て泣いたの。みかん組の知らない男の子が、ひとりでキン肉マンバトルしてた。恥ずかしくて涙しながらがんばった姿にも感動したけど、たったひとりのその子のために、ウォーズマンの谷やん（谷野保育士）も、レフェリーの直ちゃん（福島保育士）も大真面目で熱が入ってて、助っ人レスラーの人形まで手作りしてあって。ここまでしてくれるんやってびっくりしたの。ひとりの子のやりたい気持ちをこんなに大事にしてくれる園なんだって思ったら泣けてきた。うちの子は、アトムに入れて幸せやったんやって。そしたら、急に私がこの園でできることはなんだろうって思って。関係ないと一回捨てた保護者会からのお便りを拾って、今日、初めて参加してみたんです」。彼女の言葉に深く共感し、涙が出てしまったのは、主催の保護者会スタッフだけでなく、一緒にその場に居合わせた私たち職員もです。自分の子のことだけじゃなくて、他人の子のことも大事に考えていくってどういうことか。言葉でなく実感として私たちはちゃんと知っていたよね。そう胸に落ちた瞬間でもあったように思います。

5日間、本音で普段着の言葉で話したことが、ここから形になるのか、ならないか。今はまだわかりません。でも、カフェの速報とみんなの声が並ぶ掲示の前には、今日もお迎えのお母さんや休憩中の職員が、足を止めて、熱心にそのメッセージを読んでいます。語り合ったこの場所から、何かがまたはじまるかもしれない。そんな予感がしています。